

特定非営利活動法人 国際社会人剣道九州クラブ会報

INTERNATIONAL GOODWILL KENDO CLUB



剣志

KEN SHI

2022年84号（令和4年5月）

発行者 九州地区クラブ

会長 加野 資典

幹事長 山田 雅士

ホームページアドレス <http://www.npo-igkc.or.jp> eメール yumehome@dion.ne.jp

大鯉の 押し泳ぎけり 梅雨の水

原石 鼎

※大きな鯉が梅雨の雨が降る中を押し泳いでいるよ。



5月21日久留米市ランテック道場にて、5月例会を開催しました。当日は気温25度の夏日の中、33名の会員が参加し、暑さに負けず、激しい稽古が実施されました。夏本番の猛暑日に備えて、「暑熱順化」につながる稽古内容でした。

【加野会長挨拶】

今回の八段審査会は大変厳しい状況でした。合格率は0.3～0.5%です。しかしながら、会員の中から池永先生、掃本先生の2名が一次審査に合格されています。また、本日の参加者の中にも多数の一次合格経験者がいらっしゃいます。今年は名古屋の審査も予定されています。当九州地区の八段の先生に「どうしたら通るか、どこを審査員はみているか」をご指導いただき、稽古に励んでください。また、このランテック道場は環境が素晴らしく感謝申し上げます。

最後に、京都審査会において七段に永岡義規先生が見事、合格されました。地区クラブより、お祝いを進呈します。永岡先生、おめでとうございます。

【稽古会】

日時:令和4年5月21日(土)午後3時00分～4時30分

場所:(株)ランテック剣道場

久留米市宮ノ陣町若松1-3 TEL:0942-36-4125

【出席者:33名】(順不同、敬称略)

尾方正照先生 野口慎一郎先生、小島良守先生
山田雅士先生 井手勝彦先生 井上誠一先生

(当地区八段の先生6名)

秋山勝年、池永祐一郎、宇佐輝彦、大隈光夫、大塚勝也、小川金吾、小川邦明、加野資典、
佐藤博喜、澤木孝明、澤木直子、下林千代鬼、末安真知夫、瀬戸靖博、平嘉和、武田耕次、
田中昭彦、中道政生、永岡義規、西田耕陽、西見秀俊、掃本博、日高久光、溝口勝正、
森迫多美子、若松清孝、渡邊寛二、
以上27名

【相互稽古】

指導講師:井上誠一先生

指導内容:基本稽古、応用技

指導注意点

- ・面を打突した後は、打ちぬける。途中で止まってはダメです。打ちぬけた後、構えなおすまでが大事です。遠間から面を打突し、間を詰めながら、自分が打ちやすい間合いを掴みます。
- ・小手面の連続技では、ただ小手を打つのではなく、相手を崩すことが大事です。剣先で竹刀を押さえ、その反動で相手が戻すときに打突し、左足のひきつけを行い、左足を残さないことが大事です。
- ・応用技では元立ちがしっかりと、面や小手を打突します。元立ちがしっかりと打突することで、応用技の稽古が良くなります。

【指導稽古】

今回は、八段一次合格者の池永先生、下林先生、溝口先生、掃本先生にお願いし、8名の元立ちにより、指導稽古を実施しました。気温が25度のため、3分間の指導稽古、20秒の交代時間で8回、10分の水分補給を設けて、再度3分間の指導稽古、20秒の交代時間で8回実施しました。

【野口慎一郎範士説示】

自分が稽古で心がけていることを話します。「気の連続、気持の問題」があります。八段審査においては、審査時間2分間を4回繰り返します。その為には、稽古も同じ様に繰り返すことが出来なければなりません。特に最初の相互稽古での技の稽古で出来なければなりません。3本打突する中で、気持が変化してはいけません。同じ気持ちで集中して打突できなければ、肝心な時に出来ません。技の稽古の時に1本、1本を大事につなげる。打たせてもらうので、すべて100%有効打突につなげる。もし、失敗したら原因を追求していく。そして、五角稽古の時に、気持の継続を実施する。私が心がけていることです。

令和4年6月九州地区クラブ例会のご案内

日時:令和4年6月18日(土曜日)15時~16時30分

相互稽古会 15時~15時30分(予定) 指導講師:山田雅士

指導稽古 15時40分から16時30分

※3分間刻みで10回の指導稽古を約30分実施します。(5回目、6回目の間で休憩)

その後、10分間の水分補給。休憩後は20分間の自由稽古(予定)

【緊急連絡先】

山田：m.yamada.kokura.k8@gmail.com

溝口：yumehome@d7.dion.ne.jp

《連絡事項》

1. 稽古参加の時はマスク着用、(各自)検温をお願いします。体調不良の方は、稽古会のご参加はご遠慮願います。(体温計、消毒液は準備しています。)
2. 稽古会に遠方から参加して頂いています。交通事故等にはご注意ください。
3. 令和4年度の会費未納の方は、5月末までをお願いします。本部への会員報告が迫っております。

【新入会員の紹介】



私は2010年、7年間の東京勤務を経て、再度九州福岡県に転勤、福岡市南区に居住しました。

2014年6月63歳迄会社勤務後、南区より糸島市に移住して7年あまりになります。趣味は現在畑を糸島市の福吉(唐津市に隣接)で2反ほどお借りして、路地野菜を雑草と共存しながら素人栽培しております。他に梅を5反植えております。一応農家申請を完了しています。

剣道は中学2年生から始めて、7段は30年前40歳で合格しました。50歳から八段位に挑戦して30回挑戦していますが、いまだに合格に至っておりません。一次は4回合格しています。

50代までは稽古が出来ていなくて、一次1回合格、60代で会社の責任職を免れたので、稽古の回数を年間300回以上にしたら、3回合格しましたが、61歳で左膝関節痛、62歳二次で左足内転筋断裂、68歳で左肩棘上筋完全断裂と棘下筋半断裂のおまけがつきました。丁度3年間のリハビリを経て来月2回目の挑戦で36回目となります。何回怪我してもしぶとく未だ懲りず候です。

国際社会人剣道クラブの入会動機は、日本の伝統文化である剣道の特性を更に勉強して世界に発信していきたいと思ったからです。

特に福岡剣道連盟発行の今年1月号『剣脈』の中の飯笹先生の剣道”文化性”と宇留島先生の”指導者の在り方”について感銘を受けております。

今まで怪我の連続で、未だへたくそですが、怪我防止対策をして来ました。皆様これからもよろしくお願ひいたします。

若松清孝

【合格者体験記】



4月30日に京都で開催されました昇段審査におきまして、剣道七段に合格することができました。これもひとえに尾方範士を始め、国際社会人剣道クラブの諸先生方のご指導によるものと大変感謝しております。心よりお礼を申し上げます。

この度、幹事長の山田先生より審査の様子を会報に掲載する旨お話をいただきましたので、はなはだ恐縮ではございますが、お世話になりました諸先生方に感謝の意を込めましてご報告させていただきます。

今回の審査にあたっては、ちょうど2週間前に国際社会人の稽古会で見ていただいた模擬審査が合格への起点となったと感じております。熊本の澤木先生と立ち会いをさせていただき、先生から初太刀でしっかりと面に乗られ、見事な一本を頂戴しました。心の弱い私は、審査前に初太刀に迷いが生じてしまえば、とても審査に臨む心境になれないと思い、審査までの9日ほどの稽古の機会に、ただひたすら面を取るよう稽古に励みました。これには池田先生から模擬審査の日に掛けていただいた「面に自信を持って良いよ」という言葉が大きな励みとなりました。また、この間、井手先生がいらっしゃる八女地区の練習にも足繁く通わせていただきました。

自分なりにしっかりと稽古を積み、充実してきたように感じておりましたが、やはり本番の二、三日前になると「自分らしさ」が顔を出してしまい、急に不安な気持ちにかられてしまいました。しかし、以前、小島先生が「審査前にもものすごく緊張した」と話しておられたことを思い出すと、不思議と「緊張するくらいがちょうどいい」というふうに考えることができましたことには、本当に助けられたと思っております。

そうして、審査当日です。最初の方は上背もスピードもある方だったので初太刀に迷いが生じそうでしたが、もう「面しか打たない」と決めておりましたので、思い切り面に行きました。が、攻めが不十分だったので、小手を打たれてしまいました。しかし、面もしっかり捉えることができたと感じました。二人目の方には、初太刀を取ることはできませんでしたが、面を2本打突することができました。(あくまで自分の感想です。)

私は審査など緊張する場面では、攻め入る動作に入ると、つい竹刀を握ってしまう癖があり、その状態で打突しますと「ガシャ」といった感触の「手の内の冴え」のない打突になってしまうことが常でした。今回の審査では、そこに気を付けることができ、柔らかい打突ができたような気もしております。

こうして審査には合格することができましたが、まだまだ課題を背負っての合格だと思っております。今後とも段位に追いつくよう精進してまいりますので、引き続きご指導のほどよろしく願いいたします。ありがとうございました。

永岡義規